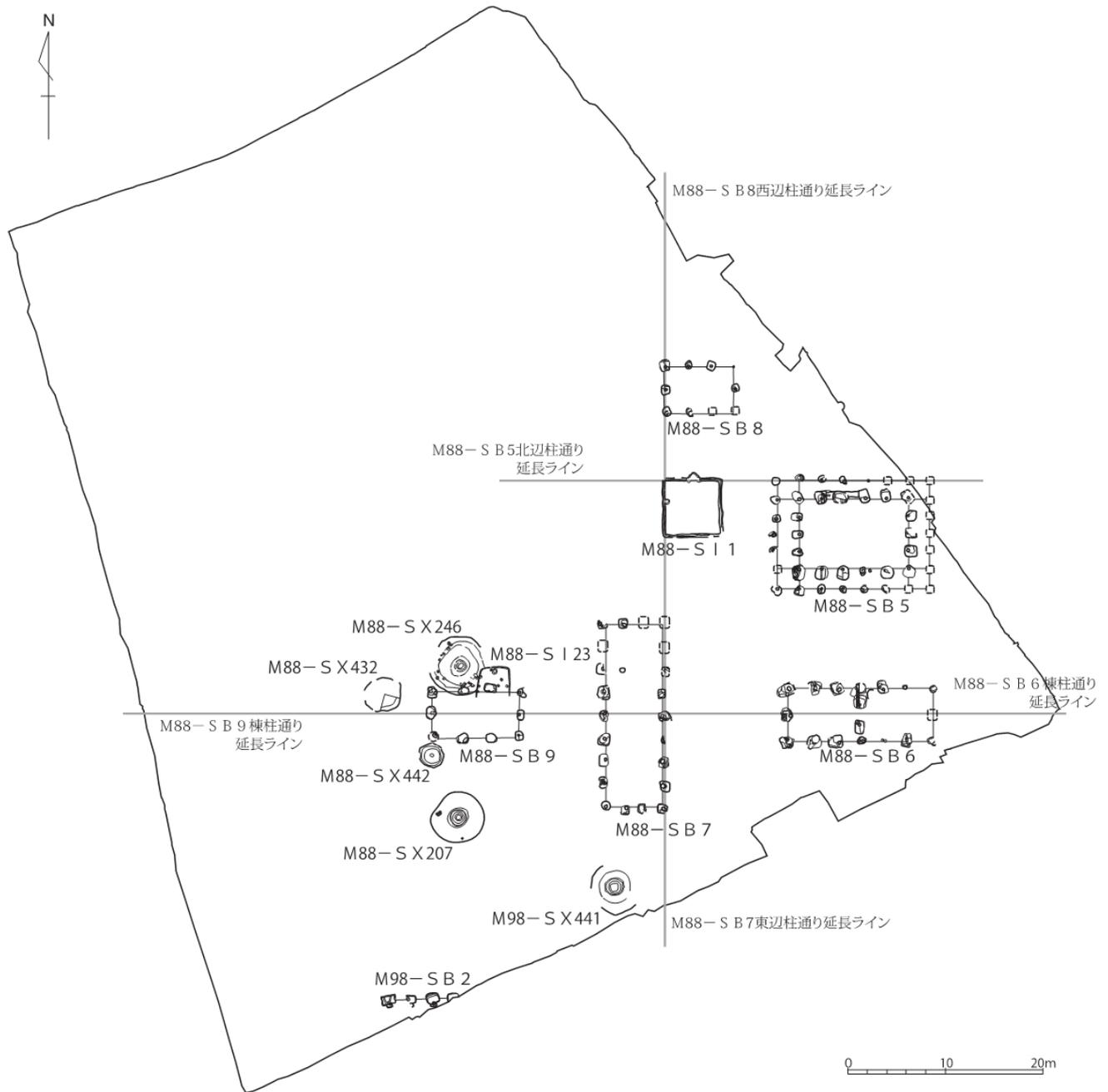


国史跡武蔵国府跡（国司館地区）遺構の変遷



M88-S B 5 東西棟の四面廂と考えられる掘立柱建物跡。柱穴のあり方や埋土が、M88-S B 7と類似、同時期と考えられ、その場合正殿(主屋)にあたる。

M88-S B 6 東西棟の掘立柱建物跡。当地区で唯一、1度の建て替えが確認される。M88-S B 7・9と柱通りを同じくする。一方、M88-S B 5とは柱通りが合わない。M88-S B 6(古)がM88-S B 9と同時期、M88-S B 6(新)の最終段階がM88-S B 7の建設時と併行する可能性を考えている。

M88-S B 7 南北棟の長大な掘立柱建物跡。P 4-5の柱抜き取り部分から8世紀前半のやや新しい傾向がある土器が出土。出土遺物・柱通り・柱穴の特徴から、M88-S B 5・S I 1と同時期と考えられ、その場合脇殿(副屋)にあたる。

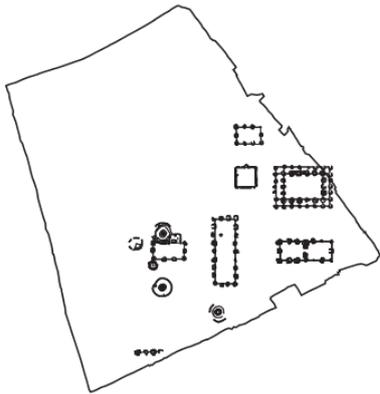
M88-S B 8 柱通り、柱穴のあり方から、M88-S B 5・7と同時期と考えられる。

M88-S B 9 7世紀末から8世紀初頭の仮屋的な竪穴、M88-S I 23に壊されることから、7世紀後半と考えられ、柱通りを同じくするM88-S B 6(古)と同時期と考えられる。

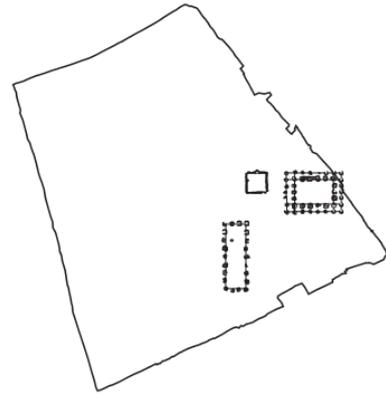
M88-S I 1 出土遺物より8世紀前半と考えられる竪穴建物跡。竪穴北辺がM88-S B 5北辺柱通りと、竪穴西辺がM88-S B 7東辺柱通り・M88-S B 8西辺柱通りと揃っている。

M88-S I 23 仮屋的な竪穴建物跡。出土遺物より7世紀末から8世紀初頭頃と考えられる。M88-S B 9 P 3-3を壊して作られている。

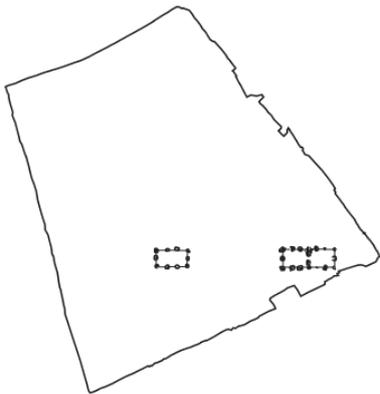
S X いずれも逆円錐形の大型落ち込み、M88-S X 207・246以外出土遺物がなく、詳細な時期は不明。



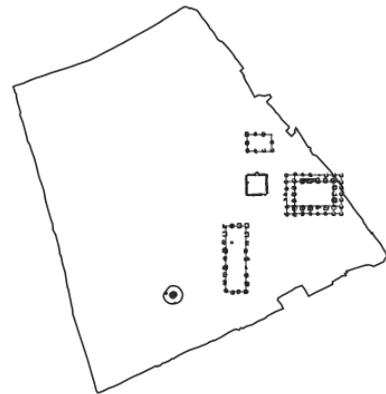
1. 国司館地区の7・8世紀の遺構



4. 国司館地区8世紀前半の遺構



2. 国司館地区7世紀後半の遺構



5. 国司館地区8世紀前半および8世紀前半と考えられる遺構



3. 国司館地区7世紀末から8世紀初頭期の遺構



6. 国司館地区の7・8世紀であるが、詳細な時期を明らかにできなかった遺構